

令和3年度事業報告

近年、全国各地で台風や豪雨などによる自然災害が相次いでいる。本県において昨年7月の豪雨により土砂災害、法面崩壊など甚大な被害が発生した際、当協会会員企業は国や県と締結している災害協定に基づき、不眠不休で応急復旧活動に尽力した。

このように災害が発生した際には地域の建設業の人たちが真っ先に現場に駆け付け崩れた土砂の撤去、堤防の復旧、アクセス道路の確保など緊急対応を行い地域の安全・安心を守る「エッセンシャルパートナー（地域の守り手）」であるとして建設業が広く世の中に理解され、評価が得られるようアピールしていくことが重要である。

また、世界的に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症により、景気が停滞し、建設業においても民間建設投資の減少などその影響が長期化・深刻化することが懸念されている。

このような状況の中、地域建設業の経営環境と雇用を支える観点から、公共事業予算の安定的・持続的な確保及び発注等要望を行った。

また、将来に亘って建設業が地域の安全・安心を守る社会的使命を果たしていくためには品質の確保、信頼される施工、次世代を担う若者が夢と誇りを持って活躍できる希望に満ちた産業となるよう「給料が良く」「休日が取れる」「希望が持てる」新3Kを推進するため「休日月1プラス運動」を導入した。

建設業界が若者にとってやりがいがあり、誇りの持てる建設産業としての魅力発信事業として当協会青年部と高校生・人材育成センターとの舗装体験実習、測量技術研修会また子供から大人まで楽しめる幼稚園児への砂場製作及び建設機械乗車体験、女性部による子供たちへのけんせつ絵本の読み聞かせ等、とっとり建設女星ネットワークと連携を図り魅力発信事業を行った。

また、建設業が地域の安全・安心の重要な役割を果たす上で、「災害時の応援体制等」の協定を関係機関と締結し、また環境保全活動、美化運動等、様々な社会活動を行った。

研修関係は、入札参加資格者格付要綱の指定研修である「人権問題研修会」「安全管理研修会」「暴力追放研修会」を開催し、受講者の加点申請を行う等知識と技術の向上に努めた。さらに人材育成センターのオーダーメイド型在職者訓練として「レベルを学ぶ」・「TSを学ぶ」・「GNSS測量講習」を行った。

総務・経営、土木、建築各委員会では、要望事項を取りまとめ、県協会の委員会で積極的な協議を行い、国・県との意見交換に反映させた。

更に、会員の安全対策として関係機関の協力のもと、全会員による安全祈願祭及び災害防止委員会による建設現場安全パトロールなど労働災害防止に努めた。

今後も、一般社団法人鳥取県中部建設業協会は、地域を支える基幹産業として地域から信頼される業界団体を目指して邁進して行きたい。